

# 教育は いま

第23号

研究テーマ

## 道徳教育の充実に関する研究

～学校全体で取り組む道徳教育と、「道徳の時間」の授業力向上に向けた取組を通して～



仙台市教育センター事業の重要な柱である調査研究は、仙台市教育委員会の方針・重点施策に関連した学校教育上当面する課題を重点的に取り上げております。昨年度から道徳教育を取り上げ、来るべき「特別の教科 道徳」の本格実施に向けて調査研究を進めているところでございます。

昨年の実態調査から見てきた課題を基に、本年度は、校内の組織体制や校内OJTを生かした研修を引き続き検証しながら、新たに授業に視点を当て、「考え、議論する道徳」の授業づくりも視野に入れながら研究に取り組んでまいりました。三校の調査協力校と委員の皆様方の御協力をいただきながら、実践に基づいた説得力のある研究を進めることができたのではないかと思います。

本年度の研究成果は、このリーフレットと共に教育センターのWebサイトにも掲載しております。各学校で、道徳教育推進のために活用していただくことを心より願っております。

仙台市教育センター所長 堤 祐子

# 「道徳教育の充実に関する研究」（二年次）

## ～学校全体で取り組む道徳教育と、「道徳の時間」の授業力向上に向けた取組を通して～

### 研究の背景

#### 量的課題

◇歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育を忌避しがちな風潮がある  
◇他教科に比べ軽んじられている

#### 質的課題

◇学校間、教師間の差が大きく、指導方法にばらつきがある  
◇登場人物の心情理解だけでなく、型にはまったものになりがちである  
◇学年が上がるにつれ、道徳の時間に対する児童生徒の受け止めがよくなる

年間35単位時間が確実に確保される  
**量的確保**

子供たちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深める  
**質的変換**

#### 「仙台市教育基本振興計画」

第4章 基本的方向  
(3) 豊かな心の育成  
①内面に根ざした道徳教育の推進による生命の尊重や規範意識の涵養

#### 「杜の都の学校教育」

重点事項  
豊かな心の育成  
～いじめ防止対策の徹底～

### これから求められる道徳教育

#### 基本的な考え方

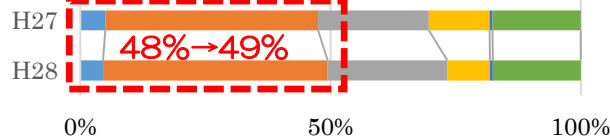
「特定の価値観を押し付けたり、主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」

「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」

児童生徒が主体的に考え続ける道徳教育の推進を目指す

### 仙台市の現状

#### 教職員全体の道徳教育についての意識



- とても積極的
- 一部の教員は積極的
- 消極的
- どちらかといえば積極的
- どちらかといえば消極的
- どちらともいえない

9月に、市内小中学校の道徳教育推進教師に意識調査を行いました。所属校の教職員全体の道徳教育への意識を見ると、「とても積極的」「どちらかといえば積極的」が49%と、半数に届かない結果となりました。

H27年度の調査でも48%と、この一年間の変化はほとんど見られませんでした。この状況では道徳教育への意識化が進んでいるとは言いがたく道徳教育の充実に向けた取組や意識付けを継続していく必要があります。

充実した道徳の授業への意識喚起の継続

### 二年次研究構想図

## 道徳教育の充実

#### 目標

「特別の教科 道徳」の実施に向けて、「考え、議論する道徳」への質的変換を図る取組を通して、道徳教育の充実を目指す

#### 「考え、議論する道徳」への取組（二年次）

#### 視点1 学校全体で取り組む道徳教育の推進

- ◇学校教育全体を通じた道徳教育の取組
- ◇重点目標、重点項目の設定
- ◇全体計画、年間指導計画の活用、見直し
- ◇校内研究を生かした授業づくり
- ◇OJTを生かした校内研修の充実

#### 視点2 「考え、議論する道徳」に向けた授業の充実

- ◇読み物教材の登場人物への自我関与を中心とした学習の実践
- ◇問題解決的な学習の実践
- ◇道徳的行動に関する体験的な学習の実践

「考え、議論する道徳」の授業で育成される資質・能力等

#### 基盤となる取組（一年次）

##### 道徳教育推進教師を中心とした組織体制づくり

- 実態調査
- 管理職のリーダーシップと、道徳教育推進教師を中心とした学校全体で取り組む組織体制づくり
  - ・校長先生との話し合い
  - ・重点目標設定
  - ・組織体制づくり
  - ・保護者、地域連携 等
- OJTを生かした取組と意識化
  - ・校内研修
  - ・授業づくり
  - ・授業研究
  - ・授業公開 等
- 道徳教育推進教師の役割の明確化
  - ・校長先生との話し合い
  - ・重点目標の設定
  - ・全体計画、別業、年間指導計画の作成と見直し
  - ・情報発信
  - ・教材整備
  - ・実践例紹介 等

### 一年次の研究から

#### 成果

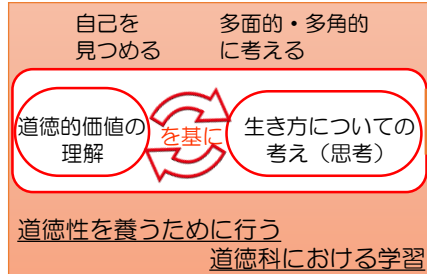
- ◇道徳教育推進教師の役割の明確化
- ◇道徳教育推進教師を中心にOJTを生かした組織体制づくりの提言

#### 課題

- ◇教職員の道徳教育に対する意識改革のための継続した働きかけ
- ◇学習指導要領改訂に対応する全体計画と年間指導計画の活用と見直し
- ◇「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業の充実

#### 道徳教育と資質・能力（イメージ）

##### 学習活動を支える要素



##### 育成を目指す資質・能力

道徳性  
道徳的な判断力  
心情  
実践意欲と態度

自立した人間として他者と共によりよく生きる実践

各教科等で育成する資質・能力  
学びに向かう力、人間性等

各教科等の目標に基づく固有の指導

#### 主体的・対話的で深い学びの実現

##### 主体的な学び

児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分との関わりで捉え、自己の生き方について学習し、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる。

##### 対話的な学び

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることができる。

##### 深い学び

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践することができる。

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

- 生きて働く知識・技能の習得
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

# 台原小学校の取組 「校内研究を生かした授業づくりの取組と道徳ノートの活用」

### ～やって学ぶ，見て学ぶ～

## 授業研究

全職員が関わる授業研究では，全員が共通した視点やねらいを意識することが出来ます。学習指導要領に沿ってポイントを絞り，道徳的価値について深まりのある授業づくりが実現します。

### 事前検討会



### 事前授業



### 研究授業



どのように発問や場面を設定したら，ねらう価値について児童が多面的・多角的に考えを深められるか，学習指導要領の内容項目を確認しながら，参加者全員が積極的に考えを出し合います。

事前検討会后，指導内容に修正を加えたものを，同じ学年の中で，学級の実態に合わせて事前授業をします。学級ごとに担任の思いや工夫が反映された授業になります。

事前授業を基に，授業者がさらに修正を重ね，十分に指導のイメージを作り上げてから授業に臨むことができます。参観者も，ねらいと指導の意図を十分に理解しながら参観できます。

## 道徳ノート

児童の気づきや変容を読み取ったり，その後の授業構想に役立てたり，毎時間の児童の学びを蓄積したりと，振り返りに活用することができます。

学習する道徳的価値についての一覧表。1年生でも分かる言葉で価値の意識付けができます。（1年）

表は授業ごとに編集したもので，裏は毎回同じ形式に記入させます。子供の変容を見ることができます。（2年）

道徳の時間以外にも，自分を見つめるときに活用します。（6年）

# 旭丘小学校の取組 「重点目標を基にした取組と共通理解」

## 重点目標を基にした取組

重点目標を基に，道徳教育の全体計画や教科や行事などとの関連を示した別業，年間指導計画を作成して活用します。特に，年間指導計画の中で重点項目に関するところを色づけして意識化を図ります。そして，児童が毎日使う家庭学習カードには重点目標の「親切・思いやり」の観点を設け，児童の振り返りを促します。

### 道徳の重点目標

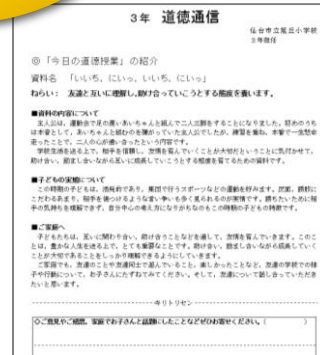
- 思いやりの心を持ち，相手の立場に立って，進んで親切にしようとする態度を育てる。【親切，思いやり】
- 進んで気持ちのよい挨拶を行い，誰に対しても，真心で接しようとする態度を育てる。【礼儀】

全教職員が重点目標を意識して指導できるようにする

道徳と教科等との関連 3学年 年間カリキュラム	
道徳教育目標	旭丘小学校群書の重点目標
人間性豊かで，たくましく生きていく児童の育成	あたたかみ心のキャッチボール～相手の気持ちを考えてみよう～
児童が主体的に学ぶことができる	あいさつや言葉で伝えよう～
各学年共通の目標	各学年ごとの目標
1) 道徳的価値の理解	2) 道徳的価値の実践
3) 道徳的価値の発信	4) 道徳的価値の創造
5) 道徳的価値の継承	6) 道徳的価値の発展
7) 道徳的価値の継承	8) 道徳的価値の発展
9) 道徳的価値の継承	10) 道徳的価値の発展
11) 道徳的価値の継承	12) 道徳的価値の発展
13) 道徳的価値の継承	14) 道徳的価値の発展
15) 道徳的価値の継承	16) 道徳的価値の発展
17) 道徳的価値の継承	18) 道徳的価値の発展
19) 道徳的価値の継承	20) 道徳的価値の発展
21) 道徳的価値の継承	22) 道徳的価値の発展
23) 道徳的価値の継承	24) 道徳的価値の発展
25) 道徳的価値の継承	26) 道徳的価値の発展
27) 道徳的価値の継承	28) 道徳的価値の発展
29) 道徳的価値の継承	30) 道徳的価値の発展

## 共通理解

小学校の道徳の授業づくりは，担任だけで抱え込んでしまう傾向があり，学級ごとに取組の差が出やすいものです。授業づくりに組織的に取り組むことで，学校全体が同じ方向で道徳教育を進めていくことが可能になります。



考え、議論する道徳をつくる 7つの指導方法の工夫	
教材提示	児童を教材に引き寄せ，状況・感情・想像をかき立てることで理解を深める工夫をする。
発問	児童の心を動かす，児童の抱える悩みや不安をかき立てる工夫をする。
話し合い	児童が互いの考えを互いに話し合い，自分や相手の考えを整理し，自分の考えを深める工夫をする。
書く活動	児童の考えを整理し，自分の考えを深める工夫をする。



学習内容を保護者に伝える道徳通信のデータは，各学年のフォルダに入れておきます。職員で共有し，お互いに参考にすることができます。

学習指導要領にある「7つの指導方法の工夫」をいつも手元に置き，参考にします。常に確認することで，ポイントを意識して指導することができます。

講師を招いて道徳の授業づくりの研修を行います。指導方法を学ぶことができ，「道徳の授業づくりってこんなに奥が深いんだ」「ぜひこんな授業をやってみよう」という教員の意欲にもつながります。

# 田子中学校の取組 「田子中スタンダードの共有と管理職の取組」

道徳の授業づくりは，担任一人に任せられるのではなく，学年でねらいの確認や，中心発問，発問構成について吟味をした上で授業に臨んでいます。授業づくりに取り組む中で，田子中の授業スタイルが見えてきました。それを「田子中スタンダード」として全員で共有し，確実に授業ができるようにしました。

## 田子中スタンダード

### 1

### 範読



教師の範読は心を込めて。範読後は十分な間を取り，内容や余韻をかみしめられるようにします。

### 2

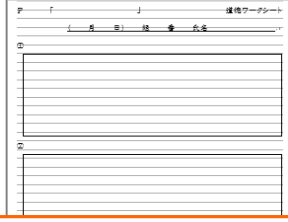
### 発問と意図的指名



中心発問までの発問構成をシンプルに。机間指導で生徒の考えを見取り，意図的指名によって，全体の考えが深まっていくように，発表順や関係性を組み立てます。

### 3

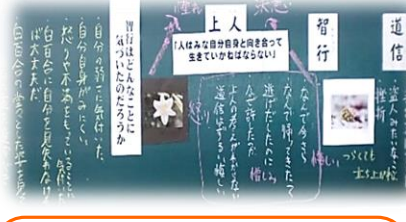
### ワークシート



生徒が発問を予想できないよう，枠のみの簡単な構成とし，考えが十分に書けるようにスペースを設けます。どの授業にも共通で活用することができます。

### 4

### 板書



資料の写真や発問，出された考えを視覚化した構造的な板書を心掛けます。生徒が考えを整理したり深めたりする際の手掛かりとなるようにします。

## 管理職の取組

管理職は，道徳の授業をできるだけ参観し助言をします。時には，道徳の授業の進め方について勉強会を開きます。集会では，自らの経験や世間で話題になっていることを取り上げ，「全校で考える道徳集会」を実施します。



# 「考え、議論する道徳」へ

自分との関わりで主体的に多面的・多角的に考える

多様な考え方、感じ方と出会い交流する議論する

他者と対話したり協働したりする中で、よりよい選択や判断、新たな問いを生み出すことができる

自らを振り返って、成長を実感できる

自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることができる

これからの課題や新たな目標を見付けることができる

「考え、議論する」ことにより・・・



「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通して、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深める。

道徳的な選択や判断が求められる問題に対し、自分にも他者にとってもよりよい選択をしたり、道徳的な価値を実現するための行為を主体的に判断し実践したりする資質・能力を育てることができる。

# 質の高い授業のための、多様な方法を取り入れた指導の例

- **読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習**  
登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考え、道徳的諸価値の理解を深める。
- **問題解決的な学習**  
生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
- **道徳的行為に関する体験的な学習**  
役割演技などの擬似体験的な表現活動を通して、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
- **複数時間を用いた指導、重点的な指導**
- **現代的な課題に関する指導**  
いじめ防止、情報モラル、社会の持続可能な発展 等

## 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

### 自我関与のための資料と発問の工夫

- 1 主題名 温かい心を大切に  
2- (2) 思いやり、親切
- 2 資料名  
一さつのおくりもの (東京書籍 小3)
- 3 ねらい  
相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

**ポイント1 資料提示の工夫**

○資料が子供たちにとって入るように視覚化・焦点化を図ります。

○教師がほれ込んだものを選びます。



### ポイント2 発問構成の工夫

**自我関与を意識した中心発問**

クマタは、ひとばん、どんなことを考えたのでしょうか。

### 価値を深める発問

クマタが、自分の一番大切なものをあげられたのは、クマタがどんな心を持っていたからでしょうか。

本をあげたい

本をあげたくない

- ・ふかみどり村の子に読んでほしい。
- ・役に立ちたい。
- ・この本で元気になってほしい。

この本はぼくのお気に入りだしなあ。

キツネの子に会えなくなるなあ。

温かい心

相手を思う心

やさしい心

思いやりの心

## 問題解決的な学習

### 問題設定と話し合いの工夫

- 1 主題名 公共のマナー  
4- (1) 規則尊重、公德心・権利義務
- 2 資料名  
シンガポールの思い出 (文溪堂 小5)
- 3 ねらい  
みんなが快適に生活するために、公德心を大切にしようとする意欲を高める。

**ポイント1 問題設定の工夫**

①本資料で問題になっていることを確認

わたしは何が気に掛かっているのか

②この時間に考えるべき道徳的問題は何かを明確化

日本の町をきれいにするために、きまり(罰金)はあったほうがいいのか

### ポイント2 主体的で協働的な話し合いの工夫

一人一人が自分の考えをノートにまとめ、それを基にグループで話し合います。その後、全体で話し合うことで、一人一人が主体的に話し合いに参加できるように

シンガポールの人たちの思いを考える

気持ちよく生活するためにきれいにしている。

きまり(罰金)はあった方がいいと思うな。

何でもきまりにすればいいわけではないんじゃない。

きまりがどうこうではなく、町がきれいなことがうれしい。

## 道徳的行為に関する体験的な学習

### 価値を把握するための役割演技の工夫

- 1 主題名 よいと思うことを  
1- (3) 勇気
- 2 資料名  
よりみち (文溪堂 小1)
- 3 ねらい  
善悪の区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

**ポイント 役割演技の工夫**

中心発問で出る多様な考えを受けて、価値把握をしていくために役割演技を取り入れます。その際、1年生という発達段階を考慮し、ねらいの違う役割演技を2回設定します。

役割演技①

場面をイメージしやすいように、代表児童と教師で行いました。主人公の心情を考えやすくなりました。

公園で遊んでいこう。

いけないよ。

役割演技②

全員がペアになって役割演技を行い、勇気を持って行動することの大切さ、行動した後のすがすがしさを感じることができました。

じっと見つめる。

うん、わかった。

### 様々な価値の葛藤や、多面的・多角的な考えを生み出す工夫 ~発問の精選~

#### ポイント1 発問構成の工夫

あなたが元さんだったら、子供たちを入園させますか。

#### 中心発問に向かわせる基本発問



元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だったのだろう。

#### 葛藤や広がり、多様な考えが生まれる中心発問

元さんは、喜んでもらえてよかった、と心から満足しているとは思えない・・・

- 1 主題名 きまりを守る  
4- (1) 法の遵守、権利義務
- 2 資料名  
元さんと二通の手紙 (あかつき 中3)
- 3 ねらい  
法やきまりの意義を理解し、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。

**ポイント2 発問の数を少なくする**

発問の数を二つに絞ったことで、最初にじっくり考え、次にお互いの多様な考えを聞き、さらに自分の考えを深める時間を確保できました。

規則を守ることが、姉弟の命を守ることにつながるのだね。

情に流されることが、危険や迷惑を招き、決して許されないときもある。

### 郷土に関心を高め、解決的学習の工夫

#### ポイント1 生徒の実態やねらいに基づいた教材開発



自己の問題として捉え、問題解決的に生き方について真剣に考えられる資料づくりを目指しました。

#### 生徒の感想

○自分を見直すことは、自分がこれから成長していくために必要なことだと思った。

○授業を通して、自分の気持ちと向き合ったり自分を見つめ直したりすると、本当の自分の気持ちが分かると思った。

### 生き方を考える問題 ~自作資料と発問~

- 1 主題名 自己を見つめる  
1- (5) 個性の伸長
- 2 資料名  
銚(かざり)金具職人として (自作資料 中1)
- 3 ねらい  
自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばしながら充実した生き方を追求しようとする意欲を育てる。

#### ポイント2 中心発問を吟味する

- ・道徳的価値の理解が不十分
- ・自己肯定感の低下
- ・自己を見つめる経験の不足

#### 中心発問

どうして金具職人の修行を始めようと思ったのだろう。

主人公の生き方を考え、自分自身の問題に向き合う道徳的実践の意欲を高める

### 異なる考えに接し、多面的・多角的に考えるための工夫 ~役割演技~

#### ポイント 役割演技の工夫

資料に登場する3人での役割演技をして、自分がその立場に立ったらどんな気持ちになるか考えさせ、女性の振る舞いには問題があるのか、おばさんはなぜ怒っているのかと問いかけました。

#### 役割演技をやってみて「思い」に気付く

電車が揺れたのだからしょうがないでしょ。(女性)

だから言ったのにー！(私)

まずは「私」に謝るべきじゃない？

でも、その前に「私」も、もっとはっきり言うべきだったのでは。

- 1 主題名 公德のモラル  
4- (2) 公德心
- 2 資料名  
缶コーヒー (東京書籍 中3)
- 3 ねらい  
公德のモラルを大切にし、人間として互いの連帯を自覚し、より望ましい社会を実現しようとする態度を育てる。

話し合いの中で、それぞれの考えの違いに気付く

- 学校の道徳教育の重点目標、重点項目の見直し  
→ 全体計画（別業）、年間指導計画の作成へ
- 授業づくりに関する学び合い  
→ 授業参観、校内研修会、教材・資料の共有

教職員の意識向上

道徳教育の充実

## 学校の道徳教育の重点目標、重点項目の見直し

教科化全面実施に向けて、まずは学校教育目標や児童生徒の実態、目指す子供像から、学校や学年の道徳教育の重点目標、重点項目をしっかりと設定しておくことで、教科書に対応した別業や年間指導計画の作成がスムーズに行えます。基盤がしっかりとできると、授業づくりも充実することができるのではないのでしょうか。

## 授業づくりに関する学び合いの設定

道徳の授業をお互いに参観する、校内研修会で道徳講話を聞く、指導案作成や教材研究をする演習を行うなどの学び合いも効果的です。実際に動いてみる、よい授業を見るなどのアクティブな学びが教師にも必要です。また、教材やワークシートなどを共有することで、協働的な授業づくりが可能になります。

このような取組によって、先生方の意識が向上し、道徳教育の充実が図られていくと考えます。

### 【教育センター研究発表会 調査研究委員会の発表への講評から】

研究アドバイザー 昭和女子大学大学院 押谷 由夫 教授



本研究のよさは、これからの道徳教育の方向性について、共通理解を深めて方法の提案が行われていることです。なぜ道徳教育改革が必要なのか、どのように道徳教育を改善していけばよいのかについて、常に原点に戻って考え、方法を開発しています。

学校現場では、方法に関わる関心が高く、目的に関する議論は軽視されがちです。方法が目的を規定するのではなく、目的が方法を規定することを確認することが大切です。

研究成果としては、次の点が挙げられます。

まず、管理職のリーダーシップの在り方についてです。集会や行事を積極的に活用して、道徳についての問いかけを行い、各学級での道徳教育につなげていくなどの提案がなされています。

第二は、道徳教育を全員で主体的に取り組む工夫です。全員が授業公開をする、校内研修をワークショップ型で充実させる、道徳通信の共有等です。

第三に、全員が確実に授業をできる取組です。様々な工夫は大切ですが、一応のスタンダードを作り、それをベースに授業を発展させていくことが大切です。

第四に、「考え、議論する道徳」について、文科省から提案されている三つのパターンを基にバリエーションを加え、提案がなされていることです。三つのパターンはトータルとして捉えることが大切です。

第五は、児童生徒の自主性を育てる指導を工夫されていることです。

第六は、それらを通して、道徳の授業と日常生活や様々な学習活動と連携を図っていく工夫がなされていることです。

さて、課題です。来年度は本研究の最終年となります。学校全体で道徳教育を組織的に取り組む具体的なモデルの提案、「特別の教科 道徳」と日常生活や各活動と響き合わせる工夫のマニュアルの作成、重点的課題についての道徳学習プログラムの提案、評価の具体的な示し方の提案等に向けて、研究を進めていただければと思います。

### 【平成28年度調査研究委員会】

研究アドバイザー	昭和女子大学大学院	押谷 由夫 教授	
委員長	佐藤 郷美 (南吉成中 校長)	副委員長	石川 裕美 (七郷小 教頭)
研究協力校	星 聡栄 (台原小)	濱本 健 (旭丘小)	鵜沼 勝久 (田子中)
研究委員	大宮 建 (八木山小)	我妻美知子 (南光台小)	小泉富貴子 (高森東小)
	高橋 由理 (岩切中)	庄子 登世 (西山中)	永塚 悦子 (八乙女中)

教育研究紀要「教育はいま」第23号

発行日 平成29年3月31日

発行者 仙台市教育センター所長 堤 祐子

所在地 983-0825 仙台市宮城野区鶴ヶ谷北一丁目19番1号

Tel 022-251-7441 (代表)

Fax 022-251-7486

Web <http://www.sendai-c.ed.jp>

代表E-mail [info-web@sendai-c.ed.jp](mailto:info-web@sendai-c.ed.jp)